

を実施し、それぞれの研究で取り上げられた対象地の自然環境と、そこでの研究結果として明らかになった市民参加やNPOの課題を抽出した。つづいて、自然環境およびそれらの課題を整理し、解決すべき点について、延いては今後課題となりうる点について体系的に示し明らかにした。

P-9

利根川上流域における「武尊100散歩トレイル」の市民による整備・運営計画について

岸 昌孝（非営利特定活動法人利根川上下流連携支援センター）

栗田 和弥（東京農業大学）

わが国の多くを占める二次的自然環境の適切な保全管理の必要性が問われている。また同時に、余暇時間の増加や余暇活動の多様性に伴って市民の自然体験への嗜好や健康志向、環境学習への関心の高まりなどによる登山やウォーキングはますます注目されると考えられる。そこで「保全管理」と「歩き」を組み合わせた新しいしくみによる自然環境の賢明な活用をする実践の一つとして、群馬県利根川上流域に位置する武尊山（ほたかやま）の中腹を一周する形で100kmの歩道を整備・運営する「武尊100散歩トレイル」計画がある。本稿はその事例を紹介し、多様なステークスホルダーと実施する主体（整備・運営に関わる市民（地域住民・活動参加者）、行政（林野庁・市町村等）、NPO（利根川上下流連携支援センター）、その他支援者（民間企業等））の連携について報告する。

P-10

山形県金山町における周辺環境や住民の属性の違いと景観認識に関する調査研究

山下 賢太郎（東京農業大学） 朝日 隆太（東京農業大学）

麻生 恵（東京農業大学）

近年、農村景観やその構成要素に対する関心の高まりとともに、それを活用したまちづくりが全国各地で見られるようになってきており、そのためには住民の景観認識を把握する必要がある。本研究では、研究室の活動として、全国でも先駆けて景観政

策を中心にまちづくりを進めている山形県金山町を対象とし、景観認識に関わる調査を実施した。金山町が制定した景観条例によると、町内を中心地である景観形成区域と、その周辺部の景観形成区域外とに分けている。調査方法として、町内をまちづくりへの取り組みや周辺環境に違いが見られる4区域（景観形成区域を含むのはその中の1区域）に分類し、住民の町内全般にわたる景観認識や景観政策の柱である金山式住宅について、ヒアリング調査を行った。その結果、全4区域において、景観形成区域外の指摘が景観形成区域を上回っており、金山町住民の景観認識は、景観形成区域外の風景や場所のほうが高いことが分かった。

P-11

自然公園の利用計画から見た乗鞍山麓五色ヶ原の利用システムについて

川口 香（東京農業大学） 下嶋 聖（東京農業大学） 麻生 恵（東京農業大学）

自然公園は自然の保護と利用の促進を目的としている。しかし、過剰利用による自然への負荷や自然体験の質の低下が問題となっており、様々な場所で適正な利用について検討がなされている。海外の自然公園等で多く実施されているガイド付きのツアーや案内を行う形式が近年、注目されている。岐阜県・高山市に位置する乗鞍山麓五色ヶ原では、地域の自然を保護し、適正な利用を図ることを目的として、2004年より入場者に対して独自のルールを決め、それに基づく利用を提供している。内容は、入場制限、ガイドの同行、入場料の徴収、ガイドブック配布等である。本研究では、五色ヶ原独自利用システムの事例を紹介するとともに、ガイド（森の案内人）を対象とし、案内を行う際の適正なグループの人数や利用システムに関する案内人の意識調査を行い、結果報告を行う。今後、他の自然公園等で、利用について計画や管理・運営を検討する際の一資料となることを目的とする。